◎2023年3月発行 ◎発行／キーコーヒー株式会社 ◎〒105-8705 東京都港区西新橋2-34-4 ◎0120-192008（お客様センター） ◎ホームページ https://www.keycoffee.co.jp/

Key Ring

SINCE 2020

KEY COFFEEとの絆 Vol.13

佐藤 桂さん
ディラ国際語学アカデミー（DILA）理事長

アファンティ・インドレスワリさん
インドネシア語講師

左／佐藤桂（さとう・かつら）さん。大手商社にてNY勤務を経験後、大手英会話学校を経て、2001年DILAに入社。2011年より現職。長年、語学教育に従事している

右／アファンティ・インドレスワリさん。インドネシア出身。2008年に来日。母国の日系企業で働いていた経験を活かし、2013年よりDILAで講師を務めている

現地の言葉で伝える熱量がトラジャ事業の力になる

質の高い講師陣による語学教育を受講生一人一人のニーズに応じて行うディラ国際語学アカデミー。実は、キーコーヒーの柴田社長は、同アカデミーの〝生徒〟である。キーコーヒーがトアルコ トラジャの生産地であるインドネシアで、優れた生産者を表彰する「KEY COFFEE AWARD（キーコーヒー・アワード）」を2013年に始めて以来、現地の言葉でスピーチをするためにインドネシア語のレッスンを毎年受けてきた。

法人向け語学研修も行うディラ国際語学アカデミーだが、「これまで数多くの受講生を指導してきた中でも、柴田社長の取り組みは珍しい」と理事長の佐藤さんは言う。

「語学教育に携わって20年になりますが、企業のトップの方がローカル言語を毎年継続して学ばれる姿を見たことはありません。日本語や英語で話して、通訳さんに訳してもらうこともできるはずですが、柴田社長はアワードのたびに勉強し、現地の言葉でスピーチされている。これはインドネシアの生産者の方々に伝わるものが違うなと思っていました」

一方、アファンティさんは、毎回柴田社長が作成したスピーチ原稿を訳しており、目を通すたびにキーコーヒーと柴田社長が生産者の方々に抱いている気持ちの熱量を感じていたという。

「スピーチ原稿を読んで訳すたびに、感銘を受けていました。トアルコ トラジャを栽培、販売するだけでなく、現地の生産者の生活を支え、社会貢献もしてくださっている。毎回、キーコーヒーさんと生産者の強い絆を感じていました。インドネシア出身の私にとって、トアルコ トラジャは特別な存在です。そのトラジャを日本に広めてくださって、本当にうれしく思います」

伝えたいことを、より伝わる形で表現する大切さ。佐藤さんは、言語でつながることから広がる可能性について、こう語る。

「キーコーヒーさんの情熱が現地の言葉であるインドネシア語で伝わることで、トラジャ事業が未来へとつながり、よりサステナブルなものになっていくことを期待しています」

伝わる外国語を徹底指導

1988年の開校以来、“言語を通して、文化に貢献する”を経営理念に掲げ、“良い語学教育は良い先生から”をモットーに経験豊富なプロの日本人講師・外国人講師による質の高い授業を行う。常に55以上の言語を扱っている。

ディラ国際語学アカデミー（DILA）
東京都千代田区六番町9
https://dila.co.jp/

Key Ring（キーリング）はキーホルダーの英語表記。キーコーヒーを支えてくださる方々へのインタビューページです

VEGETABLE OIL INK